



謹んで新年をお祝い申し上げます

新年明けましておめでとうございます。保護者の皆様や地域の皆様方には、それぞれ健やかな初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年もよろしく
お願い申し上げます。

振り返れば私が子どもの頃の正月には雪がつきもので、真っ白い雪を踏みしめながらの初詣や銀世界の景色に感動を覚えました。今年
は年末からの雪により久しぶりの雪景色の新年を迎えることとなりました。



さて、各学年とも1年のまとめの段階に入ります。「今年こそは」と、新しい年の夢を抱いたり目標を立てたりしていると思います。それぞれの年齢や自分の立場に応じた夢や目標の設定は、その後の成長に重要な役割を果たします。

各家庭において、夢や希望についての会話を心がけてみてください。目標意識を高くもった子どもほど確かな成長をします。子どもの着実な成長は何気ない日々の努力の積み重ねによって成し遂げられると思います。

今年も昨年と同様に、希望あふれる「開運の年」にしていきましょう。保護者の皆様や地域の皆様のご支援ご協力、どうぞよろしくお願いいたします。

充実した学校生活を送ろう

後期の後半が始まりました。これからの3ヶ月はあっという間に過ぎていきます。大変短い期間ですが、新学年に向けて準備をする重要な時期となります。今の学級で生活するのも残りわずか、3年生にとっては矢野中学校での生活も本当にわずかとなります。一日一日、悔いの残らないように楽しく充実した学校生活を送りましょう。

1年生は、4月から先輩と呼ばれます。尊敬される良き先輩となれるように準備を進めてください。また、自分の進むべき進路についても考えなくてはなりません。生活態度や授業態度をしっかりと見直し、立て直す期間としましょう。

2年生は、矢野中学校の顔となり舵取りとなります。また、卒業後の進路に向けての様々な学習が始まります。良いスタートを切るためにも、この期間に学習習慣も含めしっかりと生活リズムを確立しておくことが重要です。目標を低く設定せず、自分に負けないように頑張りましょう。

3年生は、いよいよ進路決定の時期となります。今月から入試の始まる人もいます。周りの人が次々と進路が決まってくると、気持ちが不安定になることがあります。でもここが自分を大きく成長させる場面です。



つらいことや嫌なことがあっても逃げ出さず、現実をしっかりと見つめて冷静に乗り越えていきましょう。そうすることで成長の度合いを大きくします。進路決定を機会に一回り大きく成長して欲しいと思います。

3年生の皆さん、合格はゴールではなく、新たなスタートです。自分の進路が決定しても気を抜いてはいけません。中学校生活を最後まで充実させること、新たな生活への準備を怠りなく進めること、無駄な時間はありません。健闘を祈ります。

話が変わりますが、年末の大掃除をしていたら、本棚から「命の授業」30万人の人が泣いた奇跡の実話という、元中学校教員の腰塚勇人さんの本が出てきました。以前にも講演をお聞きし、感動を受けたことを思い出しました。紹介したいと思います。

体育教師であった腰塚さんは、スキーでの事故をきっかけに、人生も人生観も大きく変わりました。それはスキーで転んで「首の骨」を折ったことです。救急車で病院に運ばれました。その時、お医者さんは奥さんに「たぶん、一生寝たきりか、よくて車イスの生活になるでしょう」と言われました。手術は成功しましたが、1週間たっても首から下の「手足」は、まったく動きませんでした。

毎日、「どうやったら死ねるか」そればかり考えていました。本当は、生きていたかった、でも、「生き方」がわからなかった。「何があっても、ずっと一緒にいるから」と奥さんの言葉、お母さんの「代われるものなら代わってあげたい」「先生、待っているから」仲間と生徒たちの言葉「優しさ」と「強さ」をもらった時でした。「1人じゃない」って、「生きなきゃ」って、今の全てを受け入れて、いつも笑顔でいると決めました。どんな事にも「ありがとう」を言おうと決めました。そうしたら、まったく動かなかった手足が事故から10日後、だんだん動き始めてくれたのです。

立ち上がれ歩ける喜び、しゃべれる喜び、字が書け、お箸が使える喜び、当たり前だと思っていたことに「幸せ」と「感謝」を見つけました。ケガから4ヶ月後、奇跡が起きました。再び先生として学校に戻れました。

私は首の骨を折るという大きな失敗をしました。でも、「周りの人々のおかげで、自分が生かされていること」を実感し、生きることをやめずに「幸せになる努力」を続けてこれました。だから、私はこの「事故」に感謝しています。大切なことに気づかせてくれて、ありがとう。皆さんも私のようにこれから何度も「失敗」をして、辛い思いや悲しい思いをすることがあると思う。でも、「失敗」は悪いものではなく「夢にまた一歩近づき、成長した証拠」だと捉えてください。

だからこそ、社会復帰する時には「自分の命の使い方」を真剣に考えました。もし、このケガをしなかったら、僕は“命の使い方”なんて考えなかったと思います。実際、ケガをする前は考えていませんでした。なぜなら、命があること、生きていることは、当たり前だったから。

でも、命があることも生きていることも当たり前ではないということに気づかされました。そこで決めたこと。それは「自分と他人の命を傷つけない」ということ、そして、「命の喜ぶ生き方をする」ということでした。

それを具体的に行動に移すための自分との約束が、「五つの誓い」です。

口は人を励ます言葉や、感謝の言葉を言うために使おう。

耳は人の言葉を最後まで聴いてあげるために使おう。

目は人の良いところを見るために使おう。

手足は人を助けるために使おう。

心は人の痛みがわかるために使おう。

「私を助けてくれた人たちがしてくれたことを、今度は私がしよう。」腰塚さんは、今も日本中を飛び回り「命の授業」進めておられます。

私達も、「五つの誓い」を実行したいと思います。一人の人間として。